

大石田へ行ってきました！

大石田を楽しもう倶楽部

春の大石田雛祭りと 肘折温泉

“文化とおいしいものと温泉を堪能した旅！”

その一部をご紹介します。詳細は当会HP
<http://ooishidaclub.iinaa.net/>をご覧ください。



ほっとする温かさに包まれる海藤さんの農家民宿「でくの坊」。暖炉の薪の火に癒される。



<スケジュール>

4月3日(金)

朝：東京駅から宝町インターから高速道路に入り、車で山形大石田町へ向かう。一行4名。

蔵王あたりの積雪を心配したものの、山形自動車道笹谷峠も無事通過。

昼食：天童「やま竹」(蕎麦三昧その1)

午後：大石田散策 町内に飾られたお雛様めぐり。

大石田町あつたまりランド「深堀」(温泉三昧その1)

夜：大石田を楽しもう倶楽部設立総会。地元、駒籠の皆さんとの温かい交流タイム。あれこれ話がはずみます。「でくの坊」泊

4月4日(土)

朝いちばんにお土産の漬物とおやつ用におだんごを調達。

つづいて昨日の総会に参加して下さった陶芸家ブルーノさんの家へ

昼食：次年子(じねんご)蕎麦(蕎麦三昧その2) 新庄へ

新庄から宿の迎えの車で山間を40分ほど走って山あいの湯治場肘折温泉へ。立ち寄り湯めぐり3ヶ所、そして最後は宿のお風呂で締め。(温泉三昧その2～5!?) 宿泊したのは秘湯を守る会の宿「元河原湯」

夕食にご主人の手打ち蕎麦。なんと十割蕎麦。(蕎麦三昧その3)

4月5日(日) 宿で朝風呂(温泉三昧その6) 朝食前に温泉街をそぞろ歩き。宿の車で新庄まで送ってもらい、新庄から帰路東京へ。

昼食：天童「吉里吉里」でまたもやおそばの昼食。(蕎麦三昧その4)

心配していた休日高速道路ETC1000円の渋滞もなく、いつもよりスムーズに東京駅午後6時到着。人情も歴史も文化も自然も温泉もグルメも満喫した旅でした。(久保田)



■湯治宿が並ぶ肘折温泉街。下駄がよく似合います。

肘折の湯は冷泉、温泉、炭酸泉と各種そろっていて湯量も豊富、殆どの宿が源泉掛け流しという、わざわざ訪ねる価値のある温泉です。サイダーみたいな炭酸泉は残念ながら次回のお楽しみ……。



■大石田町のメインストリート(といっても全長100m位)での雛見。主に江戸時代のもので、最上川舟運の中心河岸であった大石田には、京都よりもたらされた立派なお雛さまがあり、当時の繁栄がしのばれます。↑高桑家の享保雛。

地元の人たちとのふれあいも楽しい。残念ながら撮影禁止でしたが、歴史民俗資料化館にも古雛が。ここはたっぷり豊かな大ぶりの享保雛が印象的でした。

■フランス生まれの陶芸家ブルーノさんの家(右写真)。大石田が気に入って窯を造り、石で家も造ってしまいました。この家はここまで造るのに15年。細部まで完成するにはあと15年ぐらい。

大石田は時間の流れかたが違うのです。積んである薪は、登窯で陶器を焼くときのもの。赤松だそうです。



←ブルーノ・ビーフルさん(写真左)。家の隣の建物の中にある「トトロ」の登り釜の前で。↑ブルーノさんの作品。他にもたくさん見せていただきました。どこことなくフランス風。でも不思議に日本の古いものともマッチします。登窯には年2回火入れをするそうです。

でも不思議に日本の古いものともマッチします。登窯には年2回火入れをするそうです。

旅グルメ

○大石田は蕎麦街道といわれる。山を上ったところにある次年子(「じねんご」と読む。冬は雪に閉ざされるため、生まれた子の籍を入れるのが翌年になったことからつけられたとか)にも蕎麦屋さんが多い。埼玉県から移住した土田さんの店は、次年子で収穫された地粉にこだわり、地元のそばの打ち方にこだわった玄そば。辛み大根を薬味に食べる素朴な味(写真左下)。手作りのおいしい味噌も、ここでじっくり熟成されていた。

○次年子から新庄に抜ける道筋には、ふきのとうが至る所に芽を出していた。採っている人も多く、一行の目はたちまちふきのとう探索モードへ。川のほとりに群生しているふきのとうをしっかりとゲット!

○一日目の昼食に入った天童「やま竹」のそばまんじゅう(380円)(写真右下)。そばの香りと餡の味がマッチして、大サイズでも別腹のおいしさです。やま竹 023-653-2116



<旅の参加者>

- 久保田 佳子
- 小林 勢以子
- 武澤 和子
- 馬場 悦子